

Letter for Members

【コンテンツ】

- ICP Meeting..... 53
- IPS 学術大会..... 54
- 支部学術大会..... 55
- 歯科補綴ウインタースクール 淡路 2009..... 58

南アフリカ共和国・ケープタウン

13th International College of Prosthodontists(ICP) Meeting

武部 純, 石橋寛二 (岩手医科大学)

2009年9月10日～13日にかけて、国際補綴歯科学会(ICP)の会長Dr. Jaime Gil (Spain)とDr. Iven Klineberg (Australia)のもと、第13回ICP Meetingが南アフリカ共和国ケープタウンにて開催されました。ICPへは、本学会の佐々木啓一理事長、古谷野 潔・田中貴信 両副理事長、矢谷博文 学術担当理事をはじめ、多数の本学会員が出席いたしました。ICPへの参加登録数は387名、日本からの参加人数は60名とのことでした。72題のOral Presentation(招待、一般口演)、4題のGraduate Student Treatment Planning、133題のPoster Presentationによる盛大な発表が行われました。招待講演では、本学会より市川哲雄先生(徳島大)、谷口 尚先生(医歯大)が講演しました。Poster Presentationでは、広島大学・先端歯科補綴学研究室の土井一矢先生がポリリン酸吸着型連通多孔性ハイドロキシアパタイトによる人工骨の開発に関する研究発表にてポスター優秀賞を受賞されました。今後、益々のご活躍が期待されます。

ケープタウンは地方色と国際色が融合したアフリカ国内においては「マザーシティー」と呼ばれる都市として知られており、国際会議が多く開催されているようです。喜望峰、テーブルマウンテンなど世界的な名所のある都市で開催されました今回のICPでは、Reception&BanquetやSocial Outingにも参加する機



ICP Presidents Dr. Jaime Gil, Dr. Iven Klineberg



佐々木啓一先生(中央)、前田芳信先生(左から二人目)

会を通して多彩なアフリカ文化に触れることができたことと思います。2010年よりICP会長に就任されるDr. Sang-Wan Shin (Korea)とDr. Thomas D. Taylor (USA)より、2011年の第14回ICPはハワイで開催されることが述べられ、参加者一同は2年後の再会を楽しみにして第13回ICPは閉会となりました。

ICPへご出席された先生方にとって、本学会の今後の発展に向けた有意義な意見交換が行われたものと確信しております。

インド・トリチュード Indian Academy of Prosthodontists(IPS) 学術大会

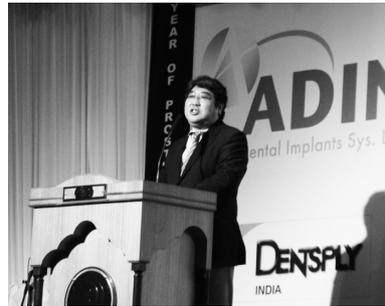
馬場一美 (国際渉外担当理事)

2009年11月6日～8日に行われたインド補綴歯科学会(IPS)第37回学術大会に参加して参りました。本学術大会はインド南部の西海岸に位置する Thrissur で行われましたが、IPS メンバー約1,600名が参加した大変な盛会で、発展しつつあるインドの活力を感じることができました。

日本補綴歯科学会(JPS)からは赤川安正元理事長、佐々木啓一理事長、是竹克紀先生(広島大)、私の4名の参加でしたが、学術大会のプログラムには、赤川、佐々木両先生、私の3つの特別講演(各1時間)と、JPS-IPS間の協定に基づいて行われた我が国への短期留学プログラムを終えた3名による成果発表会が設定されており、JPSの影響が色濃く出た学術大会でした。特に成果発表会では異口同音にすばらしい留学体験であったとの報告があり、医療技術や研究水準の高さのみならず、受入大学の温かいホスピタリティが高く評価されていました。また、学術大会に出席していたIPS会員・役員の方々からも多くのお礼の言葉をいただきました。東北大学、鶴見大学、大阪大学、九州歯科大学の関係各位へはこの場をかりてお礼申し上げます。

ちなみに学術大会の記事が翌日の新聞のトップを飾り、記事の中で私たちJPSメンバーの名前も紹介されておりました。大会期間中には盛大なパーティーが行われ無数の花火が打ち上げられる中、広大な敷地を利用して野外で様々なイベントとインド料理が振る舞われました。また、インド象がかり出されていたのには驚かされました。

今回のインド訪問を通して、赤川元理事長により着手され、平井前理事長により具体化され、佐々木理事長により実現された学会活動を基盤とした“実質的な学術交流”という成果にふれることができ、学会活動の継続性の重要性を改めて実感しました。またもう一人のキーパーソンは、本学術大会で任期を終えたIPS前President, Prof. Padmanabhanです。彼は九州歯科大学への留学経験があり、その時のすばらしい経験がJPSとの積極的な交流を推進する源になっているそ



佐々木理事長の挨拶



レセプションでの記念撮影

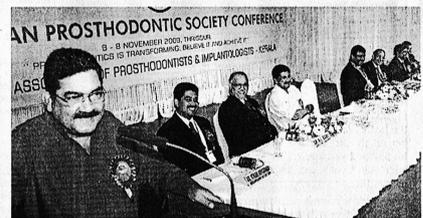
Prosthodontic Society meet begins

Express News Service
Thrissur, November 6

THE 37th annual conference of the Indian Prosthodontic Society of India (IPS), hosted by Association of Prosthodontists and Implantologists Kerala chapter (APIK), began at the Lulu International Hall here on Saturday. Former Additional Chief Secretary D Babu Paul inaugurated the three-day conference. Rajiv Gandhi University of Health Sciences Vice-Chancellor S Ramananda Shetty and MG University Pro Vice-Chancellor Rajan Varughese were present at the inaugural function.

As many as 500 scientific papers will be presented at the conference.

Christian F J Stappert presented the papers on 'Secrets of High strength ceramics in implant dentistry', Yasumasa Akagawa on 'Bone augmentation for esthetic on functional implant treatment', Dr



Former Additional Chief Secretary D Babu Paul inaugurating the 37th annual conference of the Indian Prosthodontic Society of India in Thrissur on Saturday

Kanzu Yishi Baba on 'Sleep Bruxism'.

Mahendra Nath Reddy, Suchetha Pradhan and Solomon will present papers on the coming days. Around 1,400 delegates from various parts of the country are attending the conference which will conclude on

Sunday. IPS president T V Padmanabhan presided over the inaugural meet.

IPS secretary V Rangarajan, conference chairman K L Baby and conference organising secretary Vinod Krishnan addressed the gathering.

地元紙の1面に掲載された記事

うです。Prof. Padmanabhanの言葉をかりれば、“日本の発展を手本にして今後さらに研究活動に力をいれて行きたい”とのことですが、一方では、今回触れることができた彼らの謙虚さ、勤勉さには私自身学ぶところが多く、大変有意義なインド滞在でした。

支部学術大会報告

●九州支部学術大会

平成 21 年 10 月 11 日(日) 福岡県歯科医師会館にて、九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座咀嚼機能再建学分野・古谷野 潔教授大会長のもと、平成 21 年度九州支部学術大会が開催されました。

一般演題 18 題、専門医申請ケースプレゼンテーション 4 題に加え、新たな試みとして「臨床に生かす歯科補綴学：基本から最新技術まで」と題し、経験の深い臨床家と大学教授による 6 題の講演が企画され、臨床学問としての歯科補綴学を強く意識した学術大会であったと思います。

同日には「経過から学ぶ欠損歯列の見方とマネジメント」と題し、東京都ご開業の鈴木 尚先生、宮地建夫先生による生涯学習公開セミナーが開催され、両先生の豊富な経験に基づく長期経過症例からのお話は、会員、非会員を問わず非常に有意義なものとなりました。

さらに、九州歯科大学・細川隆司教授、福岡歯科大学・佐藤博信教授による「口元のエステティックとアンチエイ



生涯学習公開セミナー



同日に併催された市民フォーラム

ジング」と題した市民フォーラムも併催され、盛りだくさん、そして実り多い学術大会でした。(長崎大 澤瀬 隆)

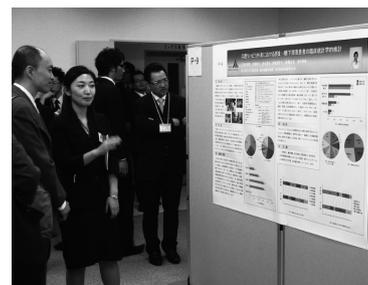
●東北・北海道支部学術大会

平成 21 年度東北・北海道支部総会ならびに学術大会が、10 月 24 日(土)と 25 日(日)の 2 日間にわたり、盛岡市の岩手県歯科医師会館 8020 プラザにおいて開催されました。今回は、岩手医科大学歯学部歯科補綴学第一講座の鈴木哲也教授が大会長を務められ、初日の専門医ケースプレゼンテーション 7 題と市民フォーラム、2 日目の一般口演発表 12 題・ポスター発表 10 題ならびに特別講演と生涯学習セミナーからなる充実したプログラムで実施されました。

市民フォーラム「口から食べる機能と口腔ケア」では、聖隷三方原病院の大野友久先生による講演に、多くの市民の方々が熱心に聞き入っていました。また、東京支部の藤本順平先生による特別講演「長期補綴 Follow up 症例から見えてくるもの」では、自ら手がけられた症例に基づいた貴重な講演が行われました。生涯学習セミナーでは「補綴主導型インプラント治療の今」というテーマで、岩手医科大学口腔インプラント科の近



藤本順平先生による特別講演



ポスター発表でのディスカッション

藤尚知先生と銀座 UC デンタルインプラントセンターの菅井敏郎先生による講演ならびに活発なディスカッションが行われました。今回は、大学の若手研究者や開業されている先生方の参加が目立ち、かつてないほど活気に溢れた大会になりました。(東北大 菊池雅彦)

支部学術大会報告

●関西支部、中国・四国支部合同学術大会

平成21年11月14日(土)、15日(日)に、関西支部、中国・四国支部合同学術大会が、淡路島の兵庫県立淡路夢舞台国際会議場において、400名余りの参加者を得て開催されました。

淡路市歯科医師会会長の神田昇平先生を名誉大会長、大阪大学の前田芳信教授と徳島大学の市川哲雄教授の両支部長を大会長、岡山大学の窪木拓男教授を準備委員長として開催されたこの学術大会では、一般口演18題、ポスター発表15題、専門医申請ケースプレゼンテーション6題の発表があり、活発な討議が繰り広げられました。また、特別講演「介護保険施設における継続的口腔機能管理」では、日本歯科大学の菊谷武先生が“口腔ケア”より専門性の高い“口腔機能管理”の意義を分かりやすく解説されました。また、シンポジウム「補綴前処置の最前線」では、東京都の澤田則宏先生、福岡県の白石和仁先生、山口県の大村祐進先生が、それぞれ非常に美しく素晴らしい臨床例をご披露くだ



水谷 紘先生による
生涯学習公開セミナー



菊谷 武先生による特別講演

さいました。さらに、生涯学習公開セミナー「磁性アタッチメントの応用の注意点とポイント」においては、東京医科歯科大学の水谷 紘先生、徳島大学の友竹偉則先生、大阪大学の権田知也先生が、考え方の基本から最新の材料や技術まで、いずれも研究者らしく、エビデンスに基づいた講演をされました。

そして何よりも、支部会前日のウインタースクールから懇親会などを通して、合宿形式で両支部の会員が集い、夜を徹して交流を深められたことが最大の成果ではなかったでしょうか。(大阪大 池邊一典)

●東京支部学術大会

平成21年度東京支部総会ならびに学術大会が、11月21日(土)、日本大学理工学部CSTホールにおいて、日本大学歯学部歯科補綴学教室I講座の祇園白信仁教授大会長のもと開催されました。

一般演題22題、ケースプレゼンテーション4題に加え、特別講演2題と生涯学習セミナーの内容の充実した大会となりました。

特別講演は東京都歯科医師会会長の浅野紀元先生に「口腔癌の早期発見に向けて」と題して、テレビや新聞にも取り上げられた東京都玉川歯科医師会の口腔ガン検診の取り組みとそのご苦労について、東京都ご開業の深水皓三先生には「治療用義歯による総義歯補綴」と題して、治療用義歯を用いてリハビリテーション・トレーニングを行うことにより病的な状態を回復させる治療について、豊富なご自身の臨床例からご講演いただきました。

生涯学習セミナーでは、日本歯周病学会理事長の伊藤公一先生に「歯周組織の保護を配慮した補綴治療のあり



会場の様子



懇親会にて

方」と題して、歯周治療-補綴治療の全身の健康への寄与を念頭においた治療についてご講演いただきました。

学会当日は連休初日で小春日和のお天気にも恵まれ、353名と多数の学会員の参加のもと、活発な討論が行われました。また、学術大会後には懇親会も開かれ、会場のあちこちで討論の続きが行われていました。

(医歯大 三浦宏之)

●東海支部学術大会

平成 21 年 11 月 28, 29 日に、平成 21 年度東海支部総会ならびに学術大会が、松本歯科大学講堂において、黒岩昭弘教授(松歯大)を大会長として開催されました。一般演題 16 題、専門医申請ケースプレゼンテーション 1 題という内容でした。例年開業医の先生方からの臨床報告も多数見られるのは、本学術大会の特徴です。

学術大会と併催された生涯学習公開セミナーでは、「長期経過観察から学ぶインプラント治療」と題して、明海大学臨床教授の河津 寛先生と静岡市の蒔田真人先生が講演されました。河津先生からは、インプラント補綴における長期経過症例を対象に、具体的な臨床結果と今後の課題点について、蒔田先生からは、インプラント支台のオーバーデンチャーに焦点を絞り、各種支台装置の特徴や使い分けと長期予後との関連性について報告がありました。

また、市民フォーラムとして、松本歯科大学の金銅英二教授、日本大学松戸歯学部の小宮山 道講師による



蒔田真人先生による
生涯学習公開セミナー



小宮山 道先生による
市民フォーラム

「知っておきたい“あごとお口の痛み”」と題した講演が行われました。金銅先生からは、原因の特定しにくい顎顔面領域の痛みを対象に神経経路や脳内で発現している器質的変化について、小宮山先生からは非菌原性の歯痛に関する臨床報告があり、基礎的、臨床的両面から慢性痛に対する理解を深めることができました。

(松歯大 山下秀一郎)

【支部学術大会案内 詳細は学会 HP をご覧ください】

●西関東支部

日程：平成 22 年 1 月 10 日 (日) 会場：パシフィコ横浜アネックスホール
大会長：高橋紀樹 (神奈川県歯科医師会会長) 準備委員長：中村善治 (鶴見大学歯学部)

●関越支部

日程：平成 22 年 1 月 30 日 (土) 会場：ピエント高崎
大会長：魚島勝美 (新潟大学大学院) 準備委員長：富塚 健 (新潟大学大学院)

●東関東支部

日程：平成 22 年 2 月 14 日 (日) 会場：浦和ロイヤルパインズホテル
大会長：藤澤政紀 (明海大学歯学部) 準備委員長：岡本和彦 (明海大学歯学部)

【関連学会学術大会案内】

●第 21 回日本歯科審美学会学術大会 メインテーマ：「歯科審美の源流：21 年目の発見」

日程：平成 22 年 8 月 27 日 (金)・28 日 (土)・29 日 (日)
会場：安比プラザ・リゾートセンター (岩手県八幡平市安比高原)
大会長：石橋寛二 (岩手医科大学歯学部) 実行委員長：武部 純 (岩手医科大学歯学部)
準備委員長：大平千之 (岩手医科大学歯学部)
連絡先：岩手医科大学歯学部歯科補綴学講座冠橋義歯補綴学分野
〒 020-8505 岩手県盛岡市中央通 1-3-27 TEL：019-651-5111 FAX：019-654-3281

●歯科補綴ウインタースクール 淡路 2009

平成 21 年 11 月 13 日 (金) 13:30 から、淡路夢舞台国際会議場で、本学会理事長の佐々木啓一校長の挨拶で歯科補綴ウインタースクール (関西支部, 中国・四国支部) は開校しました。

スクールは、2007 年 (中国・四国支部, 於: 鳴門), 2008 年 (九州支部, 中国・四国支部, 於: 別府) と開催されてきました。今回のテーマは「顎口腔を“はかる”」で、これからの生命科学に求められるミクロからマクロまでの各次元を包括し統合する “in silico dentistry” の視野を共有することが狙いでした。

北海道, 東北などからも参加があり, 参加者は 65 名で, セミナー 3 講演, 教育講演 2 題, 若手セッション 10 題, ナイトセミナー 4 題と盛り沢山でした。研究の夢も語れる数少ない場所のひとつです。夢を語るため, データからの飛躍も見られることもありましたが, 慎重さも必要であることが参加者から教授されました (まさに, スクールです)。



目玉のひとつ懇親会, 垣根が取り払われる

19:00 過ぎから, 熱気にあふれた懇親会が始まり, さらに, ヒートアップ……目玉のひとつ, ナイトセミナーへと雪崩れ込んで行きました……。

14 日は, 少しアルコールが残る方々を交えながらも, 8:40 からスタート。瞬く間に時間が過ぎ, 11:00 には修了式が行われ, 若手セッションから優秀賞の表彰があり, ウインタースクールは無事閉校しました。 (広島大 貞森紳丞)

ウインタースクール 発表内容

●セミナー『医歯工連携の新たな潮流』

- ・統合的生命科学・生体医工学の推進と予測医学基盤構築 (大阪大基礎工 野村泰伸)
- ・指タップ運動定量化技術の開発と臨床応用 (大阪大医神経内科 横江 勝)
- ・静止立位重心動揺に基づく姿勢維持機能評価 (大阪経大 野村国彦)

●教育講演

- ・歯科補綴学における in Silico Human の活用— in Vivo 計測と in Silico 解析の融合— (東北大 佐々木啓一)
- ・補綴歯科医学のパラダイムシフトと学際的研究 (岡山大 窪木拓男)

●ナイトセミナー

- ・留学を機にこれまでと異なる研究領域に取り組んでみて—情報処理科学からバイオへ— (北医療大 會田英紀)
- ・歯科補綴学の専門性を生かした口腔リハビリテーション医を目指して (広島大 吉川峰加)
- ・WISP-1/CCN4, enhancer of BMP2, regulates bone formation in vitro and in vivo — NIH 留学記を含め— (岡山大 大野充昭)
- ・カナダ・ブリティッシュコロンビア大学歯学部での研

修を終えて My life in Vancouver with overdenture patients (大阪大 権田知也)

●若手セッション

- ・fMRI による脳賦活部位からみた顎運動の検討 (日大松戸 飯田 崇)
- ・顔を“はかり”, 予想する (徳島大 岡島雅代)
- ・三叉神経領域における温度刺激を用いた定量的感覚検査 (QST) の信頼性 (大阪大 福田修二)
- ・簡易舌圧測定で介護現場の高齢者の口腔機能をはかる (広島大 津賀一弘)
- ・生体の粘弾性を考慮した三次元咬合検査法 (大歯大 佐藤正樹)
- ・全部床義歯の装着は無歯顎者の嚥下機能を改善するか? (大阪大 近藤重悟)
- ・随意性嚥下における咽頭感覚の役割: 随意性嚥下から咽頭感覚をはかる (新潟大 矢作理花)
- ・発生期歯胚において発現する新規遺伝子群の同定とその発現パターン解析 (岡山大 内部健太)
- ・陽極酸化・水熱処理チタンの擬似体液中におけるリン酸カルシウム形成能 (岩手医大 菊地静一郎)
- ・リン酸エステル系機能性モノマーによる歯質接着界面の形成メカニズムの解明 (岡山大 吉原久美子)